

決算手続き①

(1) 決算とは

① 決算とは？

「決算」とは、1年という会計期間が終了して、期末にどのような財産が増えたのか（財政状態）とその1年間でどれくらいの儲けを出したのか（経営成績）を確定させるための手続きを言います。

② 決算の流れ

これまで毎月作成してきた試算表を同じく最終月の試算表を作成します。12月決算であれば12月の試算表を作成します。

次に「決算整理手続き」を行います。

③ 決算整理手続きとは？

決算整理手続きとは、この手続きをすることで初めて適正な1年間の儲けが計算できるようになる調整のことです。

例えば、期末の12/31にたくさん商品を仕入れ、それを売るのが翌期の1/4だとしたら仕入は当期に計上されてしまうのに、売上だけ来期になってしまいます。

このような期中の仕訳は正しい処理だが、決算を考えると調整が必要な事項を「決算整理仕訳」で調整します。

(2) 現金過不足の処理（決算整理仕訳）

① 現金過不足の復習

無料講座「現金及び預金」編で学習した現金過不足は、現金勘定の残高と実際の現金（紙幣・硬貨）と差がある場合に、現金過不足勘定で現金残高を合わせる科目でしたね。

② 決算整理仕訳

期中現金が 200 円不足していたので、下記の仕訳を切っていたとします。

(借) 現金過不足 200 (貸) 現金 200

この状態で決算が来てしまったら、次の決算整理仕訳でこの差を処理します。

(借) 雑損 200 (貸) 現金過不足 200

※逆に利益が出てしまう場合には、雑益勘定を使用します。

(3) 貸倒引当金 (決算整理仕訳)

① 貸倒れとは？

売上主 (得意先) が倒産してしまうと、売掛金や受取手形の代金が回収できなくなります。このことを「**貸倒れ**」と言い、その回収出来ない部分は損失となります。

売掛金や受取手形には、この貸倒れのリスクがいつも付きまわっているという考えから、決算時にこの売掛金や受取手形の残高の何%かを貸倒リスクとして、あらかじめ損失計上しておく処理があります。

この損失の見積り勘定を「**貸倒引当金繰入**」(費用) と言い、相手勘定は「**貸倒引当金**」(資産のマイナス) で処理します。

② 貸倒引当金の設定

(例題 1) 決算につき、売掛金・受取手形残高 200,000 円について 5%を貸倒れリスクとして見積もった。

仕訳 (借) 貸倒引当金繰入 10,000 (貸) 貸倒引当金 10,000

(例題 2) 上記設定後、翌期になり売掛金 4,000 円が貸し倒れた。

仕訳 (借) 貸倒引当金 4,000 (貸) 売掛金 4,000

(例題 3) 例題 2 の後にさらに売掛金が 20,000 円貸し倒れた。

仕訳 (借) 貸倒引当金 6,000 (貸) 売掛金 20,000

(借) 貸倒損失 14,000

(解説) 見積設定していた貸倒引当金以上に貸倒れが発生してしまった場合には、その超えた部分は「貸倒損失」(費用)で処理します。貸倒引当金を設定する前に貸倒れが発生した場合には最初からこの勘定で費用処理します。

(例題4) 前期末に貸倒引当金を3,000円設定していた。当期の決算での貸倒見積高は8,000円である。

仕訳 (借) 貸倒引当金繰入 5,000 (貸) 貸倒引当金 5,000

(解説) 前期末に設定した貸倒引当金が期中貸倒れが発生せず残高が残っている場合には、その残高と当期の見積高との差額分だけを貸倒引当金繰入します。この方法を「差額補充法」と言います。

(例題5) 前期末に貸倒引当金を10,000円設定していた。当期の決算での貸倒見積高は2,000円である。

仕訳 (借) 貸倒引当金 8,000 (貸) 貸倒引当金戻入 8,000

(解説) 前期末の貸倒見積高より当期の方が低い場合もあります。この場合には、その多く設定している分を「貸倒引当金戻入」(収益)勘定で処理します。

(例題6) 2年前に得意先が倒産したため、その2年前に次の仕訳をしていました。(借) 貸倒引当金 5,000 (貸) 売掛金 5,000 でした。ところが当期になり、その得意先から1,000円を現金で回収出来た。

仕訳 (借) 現金 1,000 (貸) 償却債権取立益 1,000

(解説) 前期以前に貸し倒れとして処理していた売掛金や受取手形がその後回収出来た時は、回収出来た金額を「償却債権取立益」(収益)勘定で処理します。

(4) 消耗品の処理 (決算整理仕訳)

① 消耗品とは？

消耗品とは、コピー用紙や鉛筆などの事務用品や紙袋などの包装用紙など短いサイクルで無くなるものを言います。処理の仕方には2通りあります。

② 消耗品の仕訳

(例題1) 消耗品 3,000 円を現金で購入した。

仕訳 方法1 (借) 消耗品費 3,000 (貸) 現金 3,000

方法2 (借) 消耗品 3,000 (貸) 現金 3,000

(解説) 購入時に「消耗品費」(費用)として処理する方法と「消耗品」(資産)として処理する方法があります。

(例題2) 期末に在庫を数えると消耗品が1,000円分残っていた。

仕訳 方法1 (借) 消耗品 1,000 (貸) 消耗品費 1,000

方法2 (借) 消耗品費 2,000 (貸) 消耗品 2,000

(解説) どちらの方法でも最終的な結果は同じになります。

(5) 有価証券の評価替え (決算整理仕訳)

① 有価証券の評価替えとは？

「評価替え」とは、所有している有価証券を期末の株価で評価し直し、期末の財産評価を適正なものにする処理の1つです。

② 評価替えの仕訳

(例題1) 所有する売買目的のA社株式(帳簿価額8,000円)の期末時価は11,000円であったので、評価替えを行う。

仕訳 (借) 売買目的有価証券 3,000 (貸) 有価証券評価益 3,000

(例題2) 所有する売買目的のA社株式(帳簿価額8,000円)の期末時価は3,000

円であったので、評価替えを行う。

仕訳 (借) 有価証券評価損 5,000 (貸) 売買目的有価証券 5,000